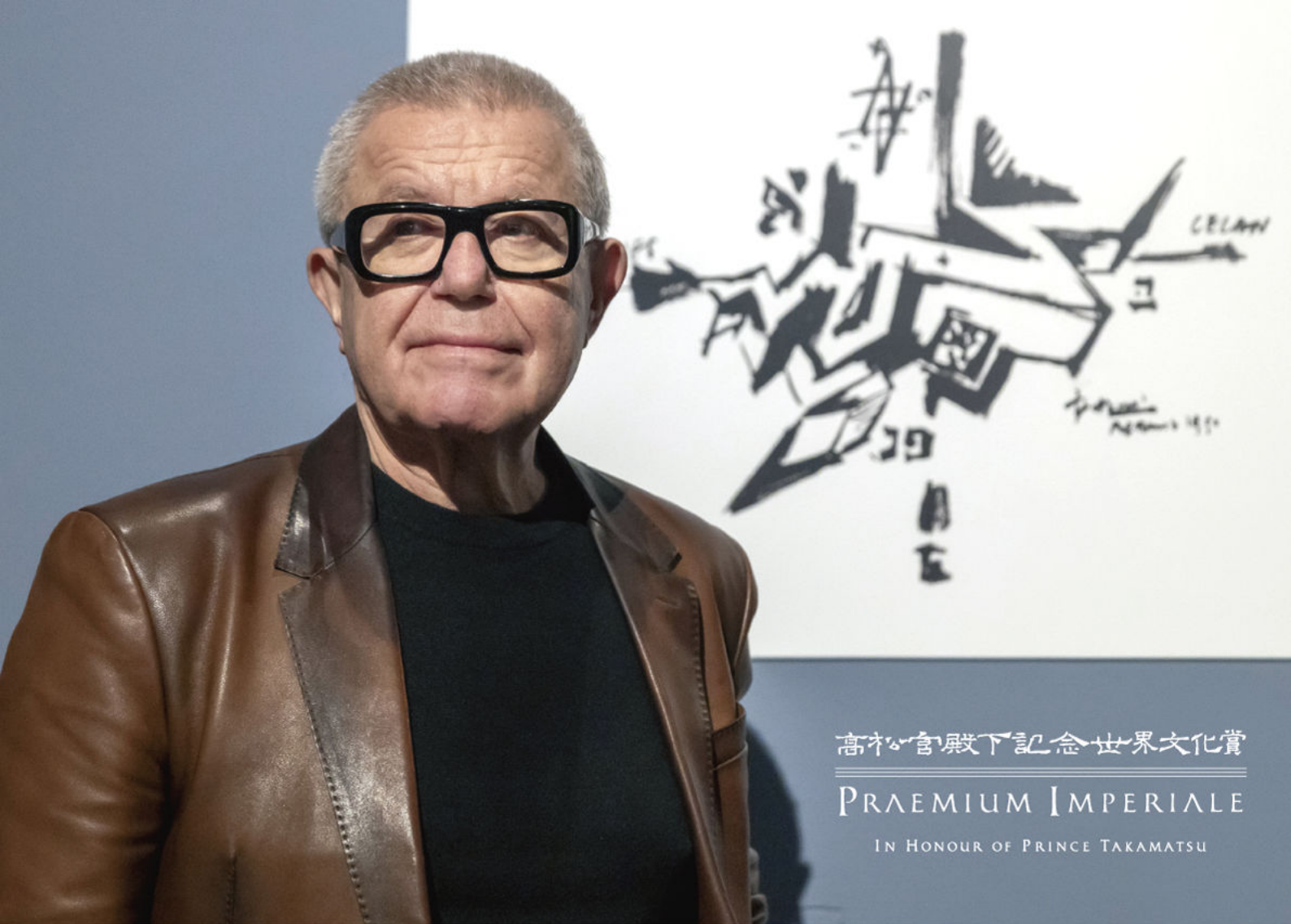




高松宮殿下記念世界文化賞

PRÆMIUM IMPERIALE

IN HONOUR OF PRINCE TAKAMATSU

自作の素描とともに『ベルリン・ユダヤ博物館』

世界文化賞 受賞記念建築講演会 2026 ダニエル・リベスキンド 建築を語る

日時：10月29日(木) 16:00～17:30 (開場15:30)

会場：鹿島KIビル大会議室 東京都港区赤坂6-5-30

主催：公益財団法人 日本美術協会 後援：鹿島

モデレーター：三宅理一（建築史家／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館館長）

建築を通して「記憶」を呼び覚ます建築家、ダニエル・リベスキンド。ホロコースト生存者の両親のもとポーランドで生まれ、天才アコーディオン少年として音楽の世界に身を置いたのち、建築へと歩みを進めました。彼が掲げるのは「形態は記憶に従う」という揺るぎない思想。直角を中心とした近代建築の規範に疑問を投げかけ、無数の角度と切断によって、世界を別の視点から感じ取る自由を私たちに差し出します。代表作『ベルリン・ユダヤ博物館』（2001年）に据えられた何も展示できない「ヴォイド（空虚）」や、『フェリックス・ヌスパウム・ハウス』（1998年）における「出口のない空間」は、来館者の身体感覚を静かに揺さぶり、歴史の裂け目を体感させます。米国同時多発テロ跡地グラウンド・ゼロの再開発では基本計画を策定し、失われたタワーの痕跡を「聖なる空虚」として都市に刻む構想を提示しました。「建築は音楽と同じく、身体そのものと結びついている」と語るリベスキンド。その思想と創作の源泉に、直接触れてみませんか。